



「音を大事にする」「心を1つにしたい」を形に

冬休み明けから子どもたちは、音楽会に向けて練習を頑張ってきました。1年2組では、大すきな自然体験園を中心として、この1年を子どもたちと共に振り返りながら、作曲をつくり、歌や鍵盤ハーモニカで演奏することに挑戦しました。子どもたちと共に作曲の練習に励みながら、わたし自身、子どもたちと過ごした日々について振り返ってきました。子どもたち自身も改めてこの一年と言う月日について振り返っていたように感じます。

先日、AさんやBさんたちは、休み時間から教室へ帰ってくると、大きな袋いっぱい何やらたくさんものを入れて教室へ戻ってきました。「何を運んできたのか」と尋ねると、「自然体験園のごみ拾いをしてきたんだよ」「やっぱり自然体験園はきれいじゃなくっちゃ」と笑顔いっぱいに話す表情からは、どこか誇らしさを感じているように見えました。「なぜ、ごみ拾いをしようと思ったのか」と尋ねると、「だって、自然体験園が汚かったら悲しいもん」と話しました。おそらくではありますが、音楽会に向けて自然体験園の歌を歌うなかで、改めて自分たちにとって自然体験園の大切さを実感すると共に、自然体験園で過ごした日々の思い出が蘇ってきたからではないかと考えています。

作曲に加え、もう1曲何を歌うか、クラスで話し合った時には、Cさんが、「プールのとき、虹が見えて、みんなで歌ったから、虹を歌いたい」と語ると、「そうだね」「(そのような出来事が)あった、あった」「みんなでうたったよね」「いいねえ」と、口々にうなずきながらみんなが笑顔になりました。このようにして、音楽へ向けた活動を通して、子どもたちは、これまで歩んできた日々を振り返ったり、歩んできた日々が改めて自分にとってどんな価値があったのか等について、再認識したりすることを身体で感覚的に感じているように思いました。

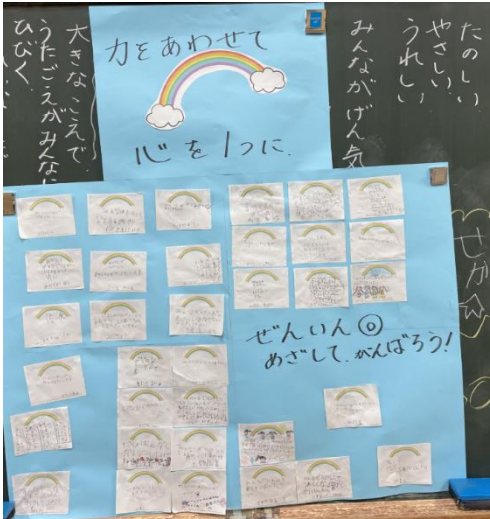
2月には、校内音楽会がありました。子どもたちは、この日に向けて練習に励んできました。小学校で初めての音楽会でした。子どもたち一人ひとりにドラマがあったように感じます。一人ひとりの思いや願いが幾重にも重なったステージとなりました。2組では、本番に向けて練習はもちろんのこと、互いにメッセージを書き合ったり、教室でみんなで手を繋いで1つの大きな輪をつくって歌ったり、何とか自分たちの目標である「心を一つに」したいを実現すべく試行錯誤をしてきました。自分たちのステージで演奏する姿をビデオに納め、何度も見返して「どうすればよいか」について話し合ってもきました。「音を大事にする」とは、どういうことなのか、1年生なりに



↑ 音楽会に向けて練習に励む様子



↑ メッセージを書き合う様子



↑ 出来上がったメッセージカード

考えてきました。「音を大事にする」ということを音楽会を通して、学んできた子どもたち。日々の学校生活で、「音を大事にする」とは、どのような姿なのかということについて、担任として今後も大事にしていきたいことの1つであると考えました。担任として、「音を大事にしている」姿とは、どのような姿なのか、また、どうすればそれが実現できるのかを改めて考えてみました。その中で、クラスで席替えをしました。今までは、全員が黒板に向けた座席でした。「音を大事にする」ということは、「級友の話に耳を傾け、心から受け止める姿」ではないかと考えました。その姿を実現するためには、前向きの座席でよいのかと自分自身に問いかけました。お互いが体を向け合い、心から聴こうとする姿を育むためには、



↑コの字型にした座席の様子

「コの字」型の座席にしてみることにしました。「コの字」型の座席に変えた後、子どもたちに、「なぜ、コの字（型の座席）にしたのか」と問いかけました。子どもたちからは、「みんなで合わせるため」「みんなと仲良くなるため」「みんなで協力するため」等の意見が出されました。どれも正解だと思います。加えて、私からは、「クラスの友達の話をつただ音として聞くのではなく、意見を言っているお友だちの気持ちや思いも受け止められるクラスになってほしい」という旨の話を伝えました。子どもたちは、その表情からいつも以上にぐっと聴き入るように私の話を受け止めてくれたように感じました。

今年度、最後の参観日に1年2組では「おみせやさんごっこ」に挑戦しました。子どもたちは、保護者の方々をお招きして行うことが子どもたちのやる気にさらに火をつけました。「おみせやさんごっこ」の主なねらいは、買い物の場面での「言語活動」を深めること、班での協力を高めること、自分たちで計画・運営することを体験することでした。もちろん、活動の中で子どもたち自身が感じている課題を見つけ、解決方法を考え、振り返り、更なる活動へと発展していくことも私なりに心がけてきました。保護者の皆様のご協力により、子どもたちの達成感、充実感は大きく実りました。参観日翌日に、「おみせやさんごっこ」で、どのような言葉があったかについて振り返りました。子どもたちからは、



↑「おみせやさんごっこ」をしている様子

『お店の人でお金をちょうどもらったときに「ちょうど頂きます」って言ったよ』『お客さんがたくさん来た時困っちゃうんだよ。その時、「ちょっとお待ちください」って言ったんだよ。でも、たくさん来たときは嬉しかったけど困っちゃたんだよ』と、参観日での「おみせやさんごっこ」の熱量そのままに見つけた言葉が語られました。さらに、どんな言葉があるか考え合った時『最後、「また来てくださいね」って言ったんだよ』と語るDさん。Dさんのこの言葉をきっかけに最後お店の人が伝える「ありがとうございました」「また来てくださいね」という言葉には、「また来てほしいな」という思いが込められていることをみんなで確認し合いました。先述の席替えでもクラスのお友だちが何を伝えようとしているか、どのような気持ちなのか、そして、それらの気持ちをどのように受け止めるのかということを考えてきている子どもたち。言葉に込められた思いに迫っていく子どもたちの姿がありました。

子どもたちは、小学校に入学してから1年が経ちました。子どもたちは、様々なものに働きかけ、受けとり、そして自分自身の変化や成長を感じてきました。働きかけるものは、自然体験園の生き物や基地づくりで使った木等、その時々で様々でした。子どもたちは多くのものを受け取ってきたことでしょう。そして、改めて感じる自然体験園の魅力。四季折々に様々な彩を見せる自然体験園に建てた秘密基地は、子どもたちにとって大切な場所となっています。ここ最近、子どもたちからは、「早く春になって早く生き物を捕まえたいよ」という声が多く聞こえてきます。子どもたちは、春の訪れを感じ始めていると共に、2年生に向けて心が動き出しているようです。